

## 花粉飛散期のコンタクトレンズ装用について

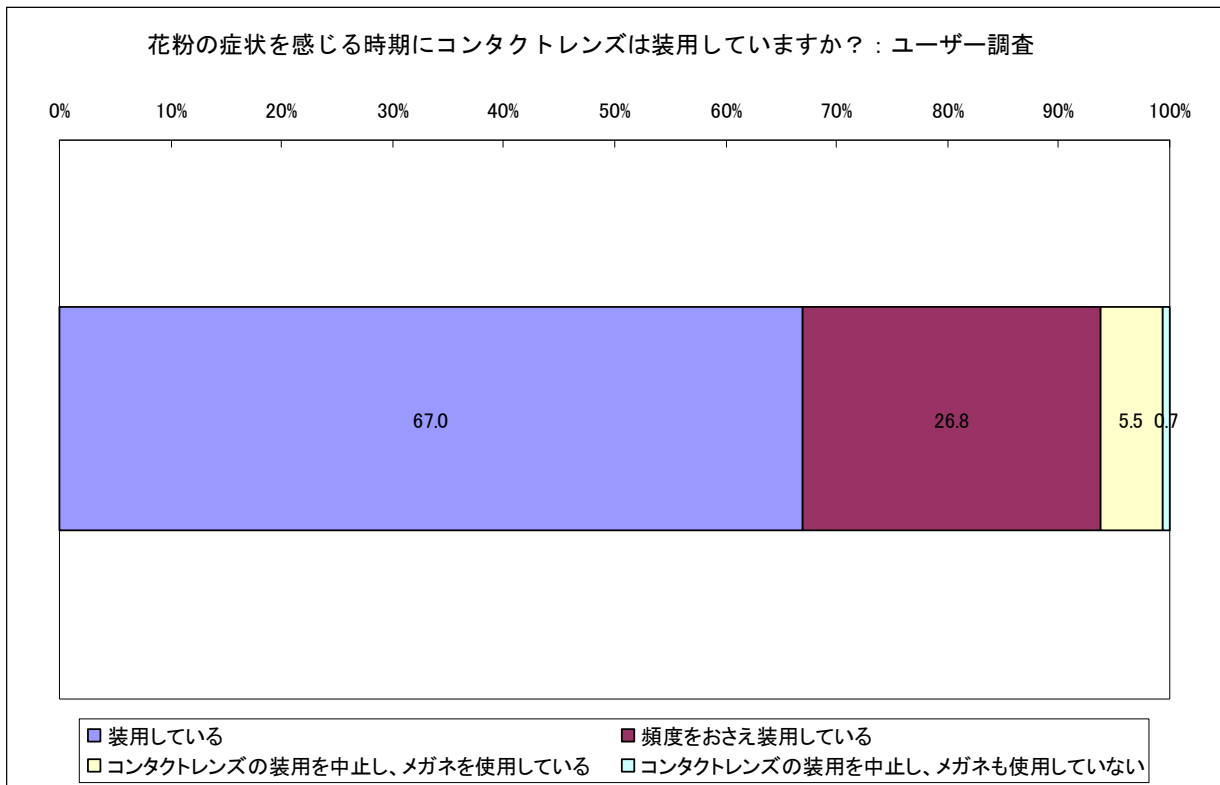
### <ユーザー調査：約 9 割の花粉症コンタクトレンズユーザーが、花粉飛散期にもコンタクトレンズを装用>

花粉症を自覚するコンタクトレンズユーザーの約 9 割が花粉飛散期にもコンタクトレンズを装用していると答えています（「装用している」：67.0%、「頻度をおさえ装用している」：26.8%）。（図 1）また、花粉症を自覚している「1 日使い捨てタイプ以外」のソフトコンタクトレンズユーザーのうち、77.2%が種類を変えていないと回答しました。

### <眼科医調査：眼科医が推奨するコンタクトレンズは『1 日使い捨てタイプ』>

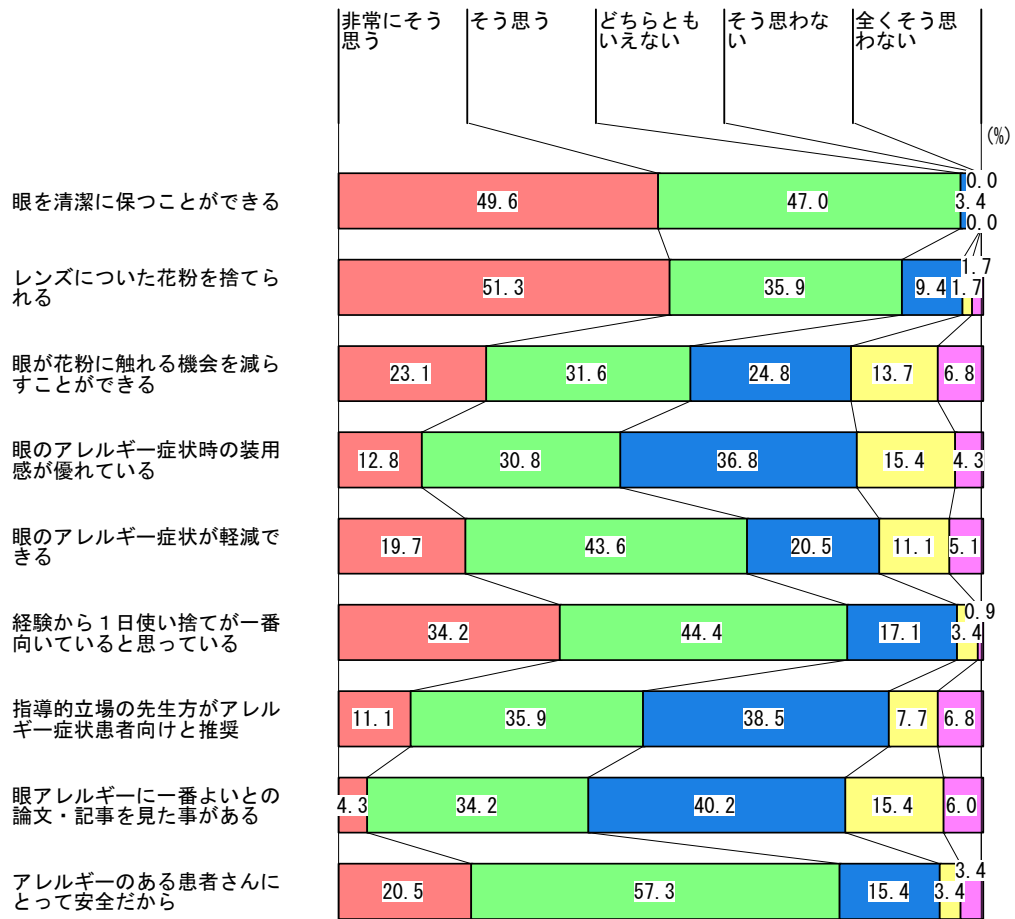
眼科医へ、花粉症患者への飛散期におけるコンタクトレンズ処方について聞くと、「アレルギー症状がある患者には処方しない」と回答したのは 1.6%に留まり、花粉飛散期にもコンタクトレンズは他の時期と変わらず処方されています。また、花粉飛散期に、アレルギー症状を発症している患者に勧めるコンタクトレンズを聞いたところ、97.5%が「1 日使い捨てタイプ」と回答。その理由として、「眼を清潔に保てる」の回答が 96.6%（非常にそう思う：49.6%、そう思う：47%）、「レンズについた花粉を捨てられる」87.2%（非常にそう思う：51.3%、そう思う：35.9%）などが高い数値となりました。（図 2）

<図 1>



<図 2>

「1日使い捨て」コンタクトレンズが望ましい理由：眼科医調査



## 花粉飛散期における花粉症コンタクトレンズユーザーの眼科への通院について

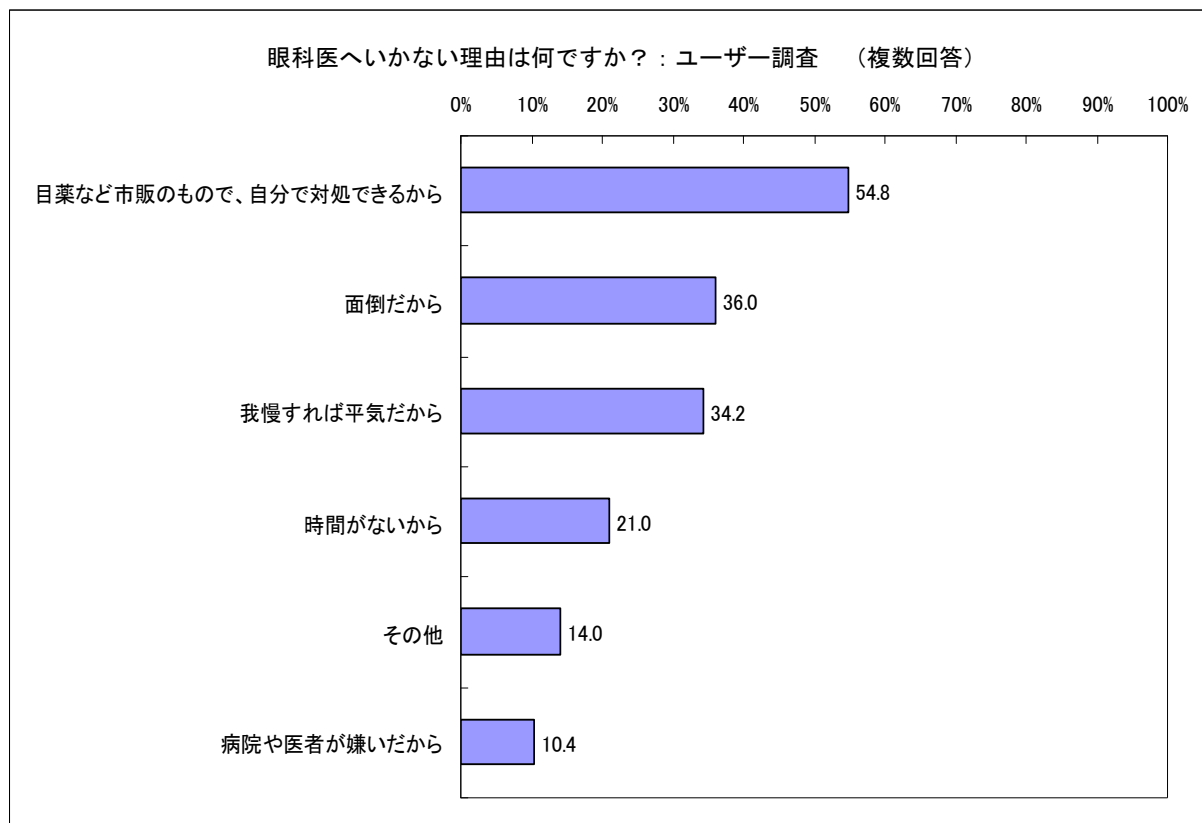
### ＜ユーザー調査：眼科に花粉症治療にいったことのある花粉症コンタクトレンズユーザーは、わずか 32.8%。自己対処で悪化させるケースも...＞

「花粉症でつらい症状」を聞いたところ、「鼻水」(84.4%)に続いて、「眼のかゆみ」(78.8%)を挙げており、「眼の充血」(33.5%)とあわせ、眼の症状を訴える花粉症のコンタクトレンズユーザーは多くいます。しかし、実際に花粉症で眼科医を受診した経験を聞くと、眼科を受診したと答えた回答者は、32.8%に留まりました。眼科医へ行かない理由を聞くと、54.8%が「目薬などで自分で対処できるから」と回答、「面倒だから」(36%)、「我慢すれば平気だから」(34.2%)と続きます。(図 3)

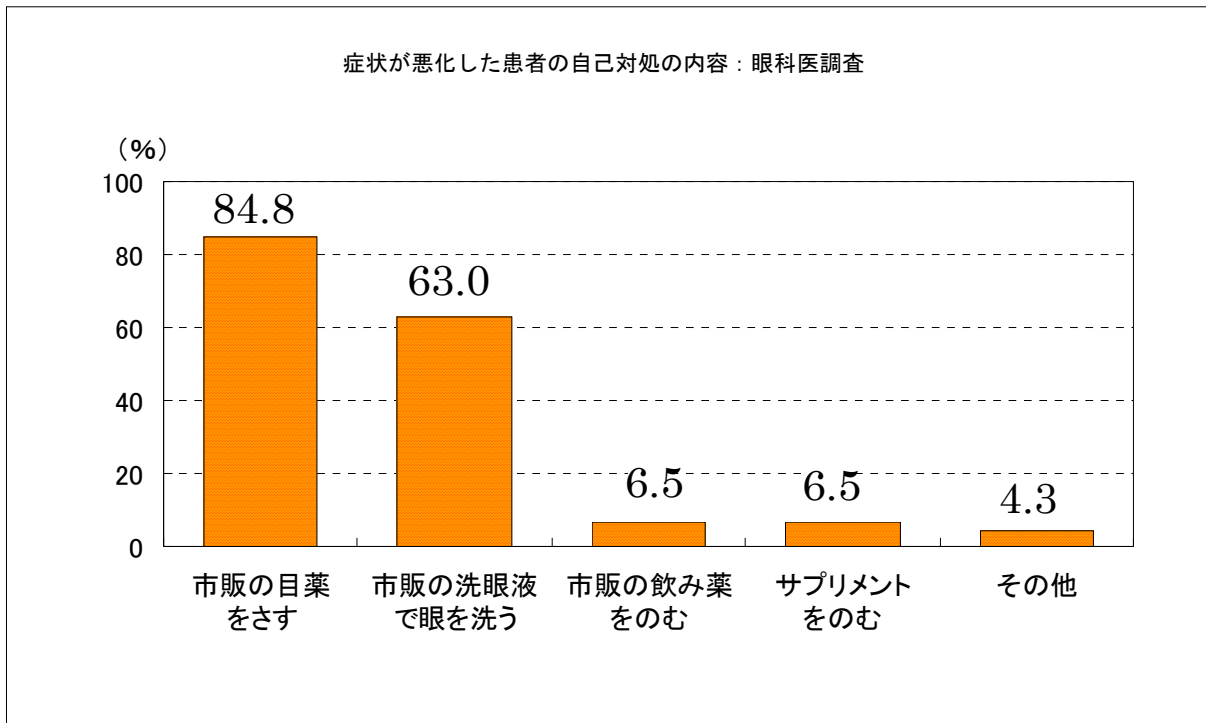
### ＜眼科医調査：自己対処により、症状を悪化させたケースの診察経験は約 8 割＞

眼科医に、自己診断で処置して症状を悪化させたケースの診察経験を聞いたところ、75.4%が「ある」と回答しました。悪化させた患者が行っていた自己対処を聞くと「市販の目薬をさす」(84.8%)、「市販の洗眼液で眼を洗う」(63%)が上位となりました。(図 4)

＜図 3＞



<図 4>



### <ジョンソン・エンド・ジョンソンの「ワンデー アキュビュー」シリーズ>

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニーでは眼の健康のためには、毎日新品レンズで清潔で快適な視界をお届けしたいという願いから、1995年に世界初の1日使い捨てコンタクトレンズ「ワンデー アキュビュー」を発売しました。その後、レンズのふちにくっきりラインでおなじみの「ワンデー アキュビュー ディファイン」や、目薬にも配合されている「うるおい成分」を採用し、眼の乾きに挑戦した「ワンデー アキュビュー モイスト」、乱視のための「ワンデー アキュビュー」乱視用など、様々なニーズに合わせて進化しつづけています。一日の終わりに、汚れや花粉をレンズごと捨てて、毎回新品レンズに取り替える「ワンデー アキュビュー」シリーズの清潔さは、花粉対策にも。

### <ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニーについて>

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニーは、1991年に「アキュビュー」を日本に導入して以来、使い捨てコンタクトレンズ市場をリードし続けてきました。現在では、様々なユーザーのニーズに対応するため、タイプの違う9種類の使い捨てコンタクトレンズをラインアップし、コンタクトレンズ市場全体におけるトップメーカーの地位を保っています。